

令和5年度 部局経営目標

| | | | |
|--|-------|--|----------|
| 年度 | 令和5年度 | 作成日 | 令和5年4月1日 |
| 部局名 | 蒜山振興局 | 部局長名 | 行安 太志 |
| (1) 部局の役割・使命（ミッション）・経営方針 | | | |
| <p>1 災害に強いまちづくり【No.11:住み続けられるまちづくりを】 市民の安心安全な暮らしを守るため関係機関・団体と連携を密にし、防災意識の向上と地域連携を図り、地域防災力の強化を目指します。</p> <p>2 生涯を通じた健康づくりの推進【No.3:すべての人に健康と福祉を】 持続可能な地域社会を実現するための基本となる健康づくりに、各団体等との連携を図りながら取り組みます。</p> <p>3 地域の強みを活かした地域振興【No.9:産業と技術革新の基盤をつくろう】 歴史、文化、風土、景観など地域の強みを活かした市民主体の振興事業や特産品を活用した商品開発などの地域内経済循環を推進し、豊かで自立した農山村の実現及び来訪者・関係人口の増加を目指します。</p> <p>4 地域の特性を生かした産業振興【No.11:住み続けられるまちづくりを】 (1)豊かな地域資源（風習文化・伝統工芸・自然景観・食文化・農林畜産物等）が次世代に引き継がれるようにブラッシュアップし、観光事業に積極的に活用していくことで地域の魅力を全国に発信し、さらなる交流・定住人口の増加を図ります。 (2)物価高騰やコロナ禍により蒜山地域の主産業である観光事業に大きな影響がある中、豊かな食文化や自然を再認識する絶好の機会ととらえ、地方の優位性に着目した取組みを推進し、全国に向け情報を発信していきます。</p> <p>5 生み育てやすい環境づくり【No.11:住み続けられるまちづくりを】 安心して子育てができる環境を確保するためライフスタイルにあわせた支援をおこないます。</p> <p>6 地域の文化力の向上【No.4:質の高い教育をみんなに】 自然・民俗の歴史を次世代に伝えるために蓄積するとともに、新たな文化及び芸術の創造に取り組み、心豊かな地域を目指します。</p> | | | |
| (2) 事業成果目標 | | 指標名及び目標値 | |
| <p>1-1 自主防災組織の強化 ・有事の際により安全な避難所の運営を目指し、自主防災組織の育成及び機能強化を目的とした勉強会を各地区ごとに開催します。 ・管内小中学校の児童生徒へ防災意識の向上を目的とした防災出前講座を行います。</p> | | <p>指標：①勉強会の開催数、 ②出前講座の開催数 目標値：①勉強会3回、②出前講座3回</p> <p>指標変更 （令和4年度実績1月末現在：①64.8%、②59/91自治会 1自治会設立）</p> | |
| <p>2-1 健康づくりのための実践活動支援 ・蒜山地域食育・健康づくり実行委員会の構成団体と連携して、健康づくり活動を支援していきます。 ・生活支援コーディネーター等と連携しながら、高齢者の介護予防・健康増進の場となる「集いの場」の立ち上げにむけた働きかけを行い、地域共に検討していきます。 ・すでにある「集いの場」に対して、運営の継続を支援していきます。</p> | | <p>指標：①働きかけする団体数、②継続支援する団体数 目標値：①1団体、②5団体</p> <p>（令和4年度実績1月末現在：①働きかけする団体数2団体、②継続支援する団体数3団体）</p> | |

| | |
|--|--|
| <p>3-1 地域振興事業（蒜山いきいきプロジェクト）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・蒜山地域への移住者による飲食店の開業や起業、新規就農などを支援することにより、地域の魅力向上と交流人口の増加を図ります。 ・里山資源を活用したジビエ肉をはじめとする郷土食や木材利用などによる資源循環を進めることで、多様ななりわいの創出を支援し、「小さな起業」から定住推進へつなげていきます。 ・庭先野菜の出荷者拡充と売上増による地域の経済循環と生きがいづくりを支援していきます。 ・中和地域の拠点施設である「えがお商店」については、引き続き定住者の受入れ相談窓口や地域の情報発信を担う地域の重要な拠点として、地元利用の促進を支援します。 | <p>指標：①蒜山地域への移住者数、②庭先野菜出荷者数、③えがお商店の利用者数</p> <p>目標値：①130人、②270人、③500人</p> <p>指標変更 （令和4年度実績1月末現在：①中和地域の交流人口34,963人、②えがお商店の利用者数②350人）</p> |
| <p>4-1 山焼きの承継と経済・文化的活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山焼きなどの草原保全や希少種動植物保護に取り組む蒜山自然再生協議会や市民ボランティア、NPO等の活動を自然再生活動と位置づけ、GREENableブランドとも連携して「利用」と「保全」の観点で両立する持続可能な仕組みを構築します。 ・（一社）日本茅葺き文化協会や蒜山茅刈出荷組合などと連携してススキの茅材としての経済的活用を図り、持続的な草原の保全及び山焼きの継承を図ります。 ・学びの会開催などによる茅の魅力発信及び地域内循環と関係人口づくりを推進し、持続可能な草原の保管理に向けた取り組みを行います。 | <p>指標：①学びの会開催、②学びの会等参加者、③茅材の生産</p> <p>目標値：①5回、②150人、③1,000束</p> <p>指標変更 （令和4年度実績1月末現在：①学びの会等参加者150人、②茅材の生産500束、③茅による景観創出1か所）</p> |
| <p>4-2 蒜山全域の周遊拡大と滞在型観光の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光資源である自然景観・文化活動、伝統行事を報道機関等を通じて積極的に情報発信し、地域全体への誘客と交流人口の増加を目指します。 ・今年度オープンする「蒜山高原自然広場」は、同敷地内の蒜山サイクリングターミナル、道の駅蒜山高原サイクリングターミナル、GREENable HIRUZENのサイクリングセンターと蒜山サイクリングロードで繋がっており、このサイクリングロード周辺には多くの観光施設が存在することから、その相乗効果により、観光の点の取組を面の取組に広げ、周遊効果を高めることで蒜山地域の滞在時間を延ばし、経済効果の向上につなげていきます。 ・「蒜山高原サイクリングロード」をフィールドに観光事業者等と連携し、利用者の満足度向上につながるイベントの開催や整備を行うことで蒜山高原におけるサイクリング観光を推進します。 ・蒜山高原ライディングパークが改修されたことに伴い、蒜山地域と馬との歴史や馬とのふれあいの場を新たな観光資源として活用していきます。 ・「滞在型観光」をキーワードに、食や高原的景観、体験型観光を充実させるため、新たな民間ホテルに道の駅や地域の商店を利用してもらえるような連携の構築を推進します。また、再建したそばの館や蒜山ヒルズなどで地元産の食材をより活用することにより、持続可能な力強い循環型経済の仕組みを推進します。 ・津黒高原荘と周辺施設の連携した観光情報等の発信により、地域全体に観光の回遊を促進することで中和地区への誘客及び収益の増加を目指します。 <ul style="list-style-type: none"> ◆津黒いきものふれあいの里との連携 ◆（一社）アシタカ、中和新生産組合との森林管理業務の提携 ◆自然共存型アウトドアパーク「冒険の森inひるぜん」との連携 ◆蒜山ツアーデスク等エコツアー団体との提携 <p>などを調整し、体験型観光や教育旅行等に対応する体制づくりを進めます。</p> | <p>指標：①報道依頼回数、②蒜山地域の関係人口、③レンタサイクル利用者数</p> <p>目標値：①30回、②2,000,000人、③10,000人</p> <p>指標変更 （令和4年度実績1月末現在：①報道掲載回数37回、②自転車イベント回数5回、③レンタサイクル利用者数7,000人）</p> |

| | |
|---|--|
| <p>4-3 伝統工芸・郷土芸能の保存と伝承</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の誇りとして連綿と引き継がれている工芸品や大宮踊り・民謡などの郷土芸能の資料を保存公開している蒜山郷土博物館と連携して、体験型観光メニューとして活用していきます。 ・郷原漆器やガマ細工の原材料確保に向けて、苗木植栽により森の整備を進めるとともに、地域資源をマップ化し、伝統工芸の普及振興と愛用者層の拡充を図っていきます。 ・GREENableブランドと連携することで、郷原漆器やガマ細工の知名度の更なる向上を図ります。 ・知名度向上と同時に、郷原漆器生産振興会及び蒜山ガマ細工生産振興会と連携を図り、後継者確保に努めていきます。 | <p>指標:①担い手組織の育成、②苗木植栽本数、③資源マップの作成</p> <p>目標値:①1団体、②100本、③一式</p> <p>指標変更 (令和4年度実績1月末現在:①振興会会員数増加なし、②苗木植栽本数100本、③体験会未実施)</p> |
| <p>5-1 「生むこと・育てることを支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母子手帳交付時及び妊娠中に、安心して出産できるよう相談や情報提供を行い、「生むこと・育てることを」の悩みや不安を軽減します。 ・出産後は、早期に訪問し、子育て環境の確認や様々な不安や悩みを聞き、それに応じた情報提供を行い、適切なサービスに繋げ、地域で健やかな子育てができるようサポートします。 ・育児不安の軽減や子育ての孤立を予防するため、つどいの広場や親子クラブなどの情報提供を行い、子育て中の親子が地域とのつながりを持てるよう支援します。 ・事故や虐待から子どもを守るため、こども園、小中学校、民生児童委員等と連携をとり、地域で一体となった支援を進めていきます。 | <p>指標:つどいの広場(中和つどいの広場)の延べ参加者数</p> <p>目標値:1,300人</p> <p>(令和4年度実績1月末現在:つどいの広場(中和つどいの広場)の延べ参加者数1,327人)</p> |
| <p>6-1 図書館の利活用促進</p> <p>蒜山図書館の特色として、本や資料で蒜山地域が紹介できる場所を常設して利用者増を図っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・蒜山図書館を特色づけるテーマの「自然・民俗」分野について、テーマに合わせた図書購入や館内展示を行います。 ・ボランティアスタッフによる読み聞かせ、民話の語りを行います。 ・知の拠点である図書館の特色を生かし、利用者からのニーズに応えた生涯学習講座を開催します。 ・市民だけでなく、観光客にも蒜山の郷土資料が閲覧しやすい常設コーナーを設けます。 ・自動車文庫の運行について3か月ごとの見直しに合わせ利用実績、要望などを参考にきめ細やかな見直しを行います。 ・大宮踊りのユネスコ無形文化遺産登録に併せた、特集展示や生涯学習講座を実施します。 | <p>指標:①図書館利用人数、②図書貸し出し冊数、③市民サポーター(ボランティアスタッフ)</p> <p>目標値:①12,000人、②34,000冊、③ボランティア2名増</p> <p>(令和4年度実績1月末現在:①図書館利用人数7,976人、②図書貸し出し冊数26,506冊、③市民サポーター(ボランティアスタッフ)7名)</p> |
| <p>6-2 博物館を活用した地域主体の歴史遺産の掘り起こし</p> <p>蒜山郷土博物館と地元住民との協働により蒜山地域特有の歴史遺産を掘り起こし、観光活用を図るとともに「郷育」教材の一つとしての価値を見い出します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習課と連携して、聞き取り調査の内容を企画展示に活用し、研究内容としてまとめたものを図録として発行します。 ・地元住民と協働して歴史の掘り起こしと活用の検討を行うことで、地元の方が自らの手で地域の歴史について知り、考える機会を生み出し、郷土への興味や愛着を育む「郷育」を推進していきます。 ・史跡を巡る歴史を明確にすることで、蒜山地域の歴史の変遷を解明し、「郷育」の拠点及び観光資源としての博物館の活用を図っていきます。 ・大宮踊の啓発活動の一環として、博物館の研究成果を活用して、3Dキャラクター動画作成に協力します。 | <p>指標:地域聞き取り調査</p> <p>目標値:企画展開催回数2回</p> <p>指標変更 (令和4年度実績1月末現在:対象人数6人及び件数6件)</p> |